



## 2020年3月期 第2四半期 連結決算概況と通期見通し



オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 境 康 | 2019年11月6日

## 免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

## ハイライト

### 実績

- ✓ 医療分野が全社業績を牽引し、第2四半期の売上高は、為替を除く実質ベースで8%増収
- ✓ 営業利益は上期最高となる509億円を計上。全利益項目で大幅な増益を達成
- ✓ 費用発生抑制等により、販管費は前年同期比157億円減  
販管費率も大幅に改善し、50.5%（前年同期比5.1pt改善）

### 業績見通し

- ✓ 通期見通しは前回公表から据え置き
- ✓ EPSの見通しは自己株式の取得により、47円に増加

- 2020年3月期 第2四半期決算における主なポイント
- 連結業績は好調に推移
- 売上高は医療分野が全社業績を牽引し、為替を除く実質ベースで上期は5%増収、第2四半期では8%の増収
- 営業利益は上期実績として過去最高となる509億円を計上する等、全利益項目で大幅な増益を達成
- 販管費は前年同期比で157億円減少
- 販管費率は50.5%となり、前年同期で5.1pt減と大幅に改善
- 通期業績見通しは従来の年間見通しに変更なし
- 8月に自己株式を取得したことにより、EPSの見通しは46円から47円に増加

**01**

---

**2020年3月期 第2四半期  
連結業績および事業概況**

## 2020年3月期 第2四半期実績 ①連結業績概況

- 1** 売上高： 内視鏡事業、治療機器事業および科学事業が堅調に推移し、増収（為替影響除き+5%）  
**2** 営業利益： 前年同期比での販管費の効率化進捗と一時費用の減少により、上期として過去最高の営業利益

(単位：億円)	第2四半期累計実績（4-9月）				第2四半期実績（7-9月）			
	2019年3月期	2020年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2019年3月期	2020年3月期	前年同期比	為替影響調整後
売上高	3,818	<b>1</b> 3,892	+2%	+5%	2,013	2,073	+3%	+8%
売上総利益 (売上総利益率)	2,488 (65.2%)	2,507 (64.4%)	+1%	+4%	1,305 (64.8%)	1,340 (64.6%)	+3%	+8%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	2,124 (55.6%)	1,967 (50.5%)	▲7%	▲5%	1,074 (53.3%)	956 (46.1%)	▲11%	▲8%
その他の収益および費用等	▲335	▲30	-	-	▲85	▲21	-	-
営業利益 (営業利益率)	30 (0.8%)	<b>2</b> 509 (13.1%)	+1,606%	+1,751%	146 (7.3%)	362 (17.5%)	+148%	+172%
税引前利益 (税引前利益率)	▲28 (-)	486 (12.5%)	-	-	119 (5.9%)	350 (16.9%)	+193%	-
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	▲55 (-)	361 (9.3%)	-	-	112 (5.6%)	274 (13.2%)	+145%	-
EPS	▲4円	27円	-	-	-	-	-	-
円/USドル	110円	109円	-	-	111円	107円	-	-
円/Euro	130円	121円	-	-	130円	119円	-	-
円/CNY	17円	16円	-	-	16円	15円	-	-

- 連結業績の概況について
- 上期の連結売上高は医療分野、科学事業が堅調に推移し、前年同期比で2%増収の3,892億円
- 為替を除く実質ベースでは、上期で5%増収、第2四半期だけで見ると8%の増収と大きく売上を伸ばした
- 営業利益は販管費の全社的な効率化推進の成果により前年同期比で販管費率を5.1pt削減できたこと、一時費用の減少により大幅な増益を達成し、過去最高の水準
- 当期利益は営業利益が大幅に改善した結果、361億円
- 全利益項目で大幅な増益となり、通期見通しの達成に向け、順調に進捗

## 2020年3月期 第2四半期実績 ②セグメント別概況

- 1** 内視鏡： 増収および販管費の効率化等により、前年同期の一時費用（97億円\*）を除いても、大幅な増益
- 2** 治療機器： 全領域順調に進捗し、増収を主要因に第1四半期の減益から増益に転換
- 3** 科学： 生物顕微鏡、産業製品の売上増加と販管費の効率化により、上期として過去最高の営業利益
- 4** 映像： 前年同期の一時費用が減少し、損益は改善

第2四半期累計実績（4-9月）

単位：億円		2019年3月期	2020年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	2,008	2,068	+3%	+7%
	営業利益	416	<b>1</b> 598	+44%	+51%
治療機器	売上高	1,048	1,080	+3%	+7%
	営業利益	131	<b>2</b> 152	+16%	+21%
科学	売上高	473	497	+5%	+8%
	営業利益	28	<b>3</b> 54	+92%	+103%
映像	売上高	257	213	▲17%	▲14%
	営業利益	▲92	<b>4</b> ▲57	+35億円	+40億円
その他	売上高	32	33	+3%	+3%
	営業利益	▲14	▲13	+1億円	+1億円
全社・消去	営業損益	▲439	▲225	+214億円	+214億円
連結合計	売上高	3,818	3,892	+2%	+5%
	営業利益	30	509	+1,606%	+1,751%

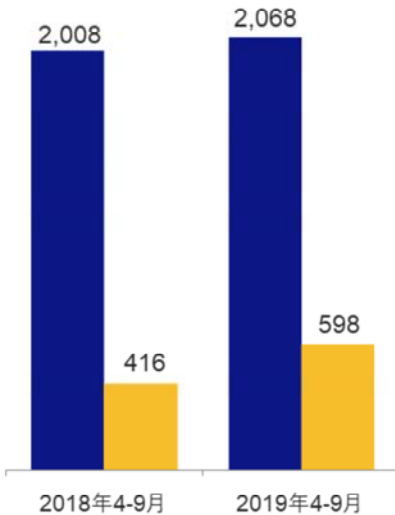
第2四半期実績（7-9月）

単位：億円		2019年3月期	2020年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	1,079	1,114	+3%	+8%
	営業利益	201	379	+89%	+101%
治療機器	売上高	538	560	+4%	+9%
	営業利益	72	95	+32%	+39%
科学	売上高	262	271	+3%	+8%
	営業利益	32	37	+17%	+30%
映像	売上高	118	111	▲6%	▲2%
	営業利益	▲34	▲34	+1億円	+3億円
その他	売上高	16	17	+9%	+9%
	営業利益	▲7	▲7	+1億円	+1億円
全社・消去	営業損益	▲117	▲110	+7億円	+7億円
連結合計	売上高	2,013	2,073	+3%	+8%
	営業利益	146	362	+148%	+172%

## 2020年3月期 第2四半期実績 ③内視鏡事業



■ 売上高 ■ 営業利益  
(億円)



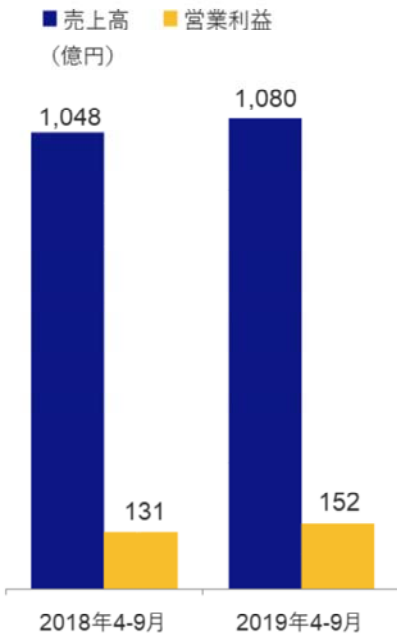
- ☑ **売上高** 中国の高い売上成長を主要因として、消費税増税前の駆け込み需要を含む日本の売上増加もあり、増収（為替影響除き+7%）
- ☑ **営業利益** 増収、販管費の効率化および費用発生の遅れもあり、大幅な増益

単位: 億円	第2四半期累計実績 (4-9月)				第2四半期実績 (7-9月)			
	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	2,008	2,068	+3%	+7%	1,079	1,114	+3%	+8%
営業利益	416	598	+44%	+51%	201	379	+89%	+101%
その他の損益*	▲69	▲3	-	-	▲80	▲4	-	-
営業利益率	20.7%	28.9%		29.3%	18.6%	34.0%		34.6%

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

- 内視鏡事業
- 売上高：前年同期比3%増の2,068億円
- 成長ドライバーとなっている中国を主要因に、消費税増税前の駆け込み需要が見られた日本においても売上が増加
- 為替を除く実質ベースでは7%の増収となり、高い売上成長を実現
- 営業利益：前年同期比44%増の598億円
- 営業利益率：28.9%
- 増収と販管費の効率化および費用発生の遅れもあり、増益
- 仮に前年同期の米国司法省との司法取引契約締結に伴う費用97億円を除いても、前年同期比17%増となる大幅な増益を達成

## 2020年3月期 第2四半期実績 ④治療機器事業



**売上高** 処置具を中心に全領域で売上を拡大し、増収（為替影響除き+7%）

**営業利益** 増収を主な要因として、増益

単位: 億円	第2四半期累計実績 (4-9月)				第2四半期実績 (7-9月)			
	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,048	1,080	+3%	+7%	538	560	+4%	+9%
営業利益	131	152	+16%	+21%	72	95	+32%	+39%
その他の損益*	0	▲7	-	-	1	▲6	-	-
営業利益率	12.5%	14.1%		14.2%	13.4%	17.1%		17.2%

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

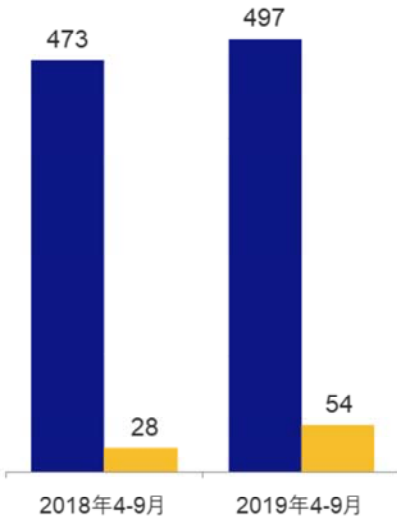
- 治療機器事業
- 売上高：前年同期比3%増の1,080億円
- 各地域のニーズを捉えた製品を拡販し、好調に推移している処置具を中心に、全領域において売上を拡大
- 為替を除く実質ベースでは、7%の増収と成長が継続
- 営業利益：前年同期比16%増の152億円
- 営業利益率：14.1%
- 増収を主要因として増益



## 2020年3月期 第2四半期実績 ⑤科学事業



■ 売上高 ■ 営業利益  
(億円)



### ☑ 売上高

生物顕微鏡は国内や中国で好調に推移し、産業製品は工業用内視鏡の新製品効果や非破壊検査機器の北米を中心とした売上成長により、増収

### ☑ 営業損益

増収および販管費の効率的なコントロールにより、上期として過去最高の営業利益

単位: 億円	第2四半期累計実績 (4-9月)				第2四半期実績 (7-9月)			
	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	473	497	+5%	+8%	262	271	+3%	+8%
営業利益	28	54	+92%	+103%	32	37	+17%	+30%
その他の損益*	▲1	▲2	-	-	▲1	▲1	-	-
営業利益率	5.9%	10.8%		11.1%	12.1%	13.8%		14.6%

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

### ● 科学事業

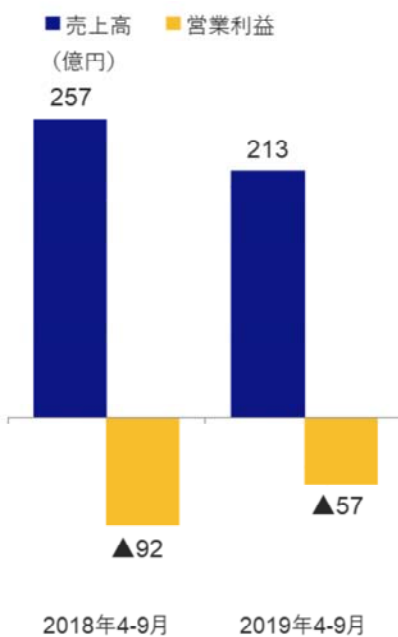
● 売上高：前年同期比5%増の497億円

● 営業利益：前年同期比92%増の54億円

● 生物顕微鏡は国内や中国で好調に推移し、産業製品は工業用内視鏡や非破壊検査機器等の売上成長により増収

● 増収および販管費の効率的なコントロールにより、上期として過去最高の営業利益

## 2020年3月期 第2四半期実績 ⑥映像事業



☑ 売上高

ミラーレス一眼の厳しい事業環境等に加え、生産拠点再編の影響により新製品の導入が出来ておらず、減収

☑ 営業損益

前年上期に計上した生産拠点の再編に伴う費用が今期は発生していないことや販管費の抑制等により損益は改善（損失額は計画の範囲内）

第2四半期累計実績（4-9月）

単位: 億円	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	257	213	▲17%	▲14%
ミラーレス	188	153	▲18%	▲16%
コンパクト	40	35	▲13%	▲10%
その他	29	25	▲13%	▲11%
営業損益	▲92	▲57	+35億円	+40億円
その他の損益*	▲53	▲10	-	-
営業利益率	-	-	-	-

第2四半期実績（7-9月）

	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	118	111	▲6%	▲2%
ミラーレス	84	76	▲10%	▲6%
コンパクト	20	23	+14%	+18%
その他	14	12	▲9%	▲5%
営業損益	▲34	▲34	+1億円	+3億円
その他の損益*	▲4	▲5	-	-
営業利益率	-	-	-	-

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

### ● 映像事業

● 売上高：前年同期比17%減の213億円

● 営業損益：57億円の営業損失

● ミラーレス一眼の厳しい事業環境等に加え、生産拠点再編の影響により新製品の導入が出来ておらず減収

● 前年同期に計上した生産拠点の再編に伴う費用が今期は発生していないことや販管費の抑制等により、今期は損益が改善

● 損失額は計画の範囲内で推移

● 下期は複数の戦略製品の投入を計画しており、今月にはミラーレス一眼カメラ2機種が発売を予定

● 新製品効果と販管費を適切にコントロールすることで、下期は大幅な収益改善を目指す

## 財政状態計算書

- 国際会計基準の新リース基準（IFRS第16号）を適用した影響により、資産、負債ともに増加
- 自己株式の取得により資本は減少

(単位：億円)	2019年3月末	2019年9月末	増減額		2019年3月末	2019年9月末	増減額
流動資産	4,560	4,644	+83	流動負債	2,875	3,781	+906
棚卸資産	1,536	1,624	+88	社債及び借入金	597	1,608	+1,011
非流動資産	4,760	4,975	+215	非流動負債	2,021	2,209	+187
有形固定資産	1,769	2,042	+273	社債及び借入金	1,216	1,208	▲8
無形資産・その他	1,979	1,954	▲25	資本	4,424	3,629	▲795
のれん	1,012	979	▲33	自己資本比率	47.3%	37.6%	▲9.7pt
<b>資産合計</b>	<b>9,320</b>	<b>9,619</b>	<b>+298</b>	<b>負債及び資本合計</b>	<b>9,320</b>	<b>9,619</b>	<b>+298</b>

有利子負債：2,816（2019年3月末比+1,003）

- 財政状態について
- 国際会計基準の新リース基準を適用した影響により、資産、負債ともに増加
- 棚卸資産が88億円増加したが、これは主に第3四半期から期末に向けて在庫を構築している影響によるもの
- 資本は8月に実施した自己株式の取得により前期末から減少し、3,629億円
- 自己資本比率は前期末比で9.7ポイント減少し、37.6%

## 連結キャッシュフロー計算書

☑ FCF：医療分野を中心とした営業利益の創出により、359億円のプラス

☑ 財務CF：自社株式の取得（934億円）を主要因に105億円の支出

第2四半期累計実績（4-9月）

(単位：億円)	2019年3月期	2020年3月期	増減
売上高	3,818	3,892	+73
営業利益	30	509	+480
営業利益率	0.8%	13.1%	+12.3pt
営業キャッシュフロー	274	673	+398
投資キャッシュフロー	▲314	▲314	0
フリーキャッシュフロー	▲40	359	+398
財務キャッシュフロー	▲582	▲105	+477
現金及び現金同等物期末残高	1,309	1,355	+47
減価償却費	284	334	+50
設備投資額	311	329	+18

- キャッシュフローの状況について
- 営業キャッシュフロー：医療分野を中心とした営業利益の創出により、673億円
- 投資キャッシュフロー：医療分野のデモ・ローナー品等の有形固定資産取得による支出等により、314億円のマイナス
- フリーキャッシュフロー：359億円のプラスを確保
- 財務キャッシュフロー：934億円の自社株式の取得を実施

# 02 2020年3月期 通期業績見通し

## 通期見通し ①連結業績

- 1 売上高は前回公表から変更なし
- 2 Transform Olympusに伴う先行投資（ITインフラや品質法規制機能強化等）および上期の費用発生が遅れも考慮し、各段階利益は前回公表を据え置き
- 3 自己株式の取得に伴い、EPSは47円に増加

単位：億円	2020年3月期 8月2日公表見通し	2020年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比	2019年3月期 通期実績
売上高	1 8,000	8,000	-	-	7,939
売上総利益 (売上総利益率)	5,080 (63.5%)	5,090 (63.6%)	+10	-	5,096 (64.2%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,140 (51.8%)	4,130 (51.6%)	▲10	-	4,375 (55.1%)
その他の収益および費用等	▲40	▲60	▲20	-	▲438
営業利益 (営業利益率)	2 900 (11.3%)	900 (11.3%)	-	-	283 (3.6%)
税引前利益 (税引前利益率)	860 (10.8%)	860 (10.8%)	-	-	201 (2.5%)
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	630 (7.9%)	630 (7.9%)	-	-	81 (1.0%)
EPS	3 46円	47円			
円/USD	106円	108円			
円/Euro	121円	121円			
円/CYN	16円	15円			

**2020年3月期配当**  
年間配当10円を予定  
(変更なし)

- 2020年3月期の見通しについて
- 売上高は8月に公表した数値から変更なし
- 各段階利益は上期の費用発生が遅れが生じたことに加え、ITインフラや品質法規制機能の強化に伴う費用等、Transform Olympusに伴う先行投資を見込んでいることもあり、前回公表を据え置き
- EPSの見通しは8月にソニー等から約8,000万株の自己株式を取得したことに伴い、47円に増加
- 為替レートは第2四半期の実績を反映し、通期で1ドル108円、1ユーロ121円を想定
- 配当は期初の配当予想を据え置き、2020年3月期の年間配当として引き続き1株当たり2.5円増配の10円を予定

## 通期見通し ②セグメント別業績

- 1 科学事業： 上期実績を踏まえて、営業利益を上方修正  
 2 全社・消去： Transform Olympusに伴う先行投資により修正

単位：億円		2020年3月期 8月2日公表見通し	2020年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比
内視鏡	売上高	4,200	4,200	-	-
	営業利益	1,050	1,050	-	-
治療機器	売上高	2,170	2,170	-	-
	営業利益	300	300	-	-
科学	売上高	1,060	1,060	-	-
	営業利益	1 90	110	+20	+22%
映像	売上高	500	500	-	-
	営業利益	▲70	▲70	-	-
その他	売上高	70	70	-	-
	営業利益	▲40	▲40	-	-
全社・消去	営業利益	2 ▲430	▲450	▲20	▲20億円
合計	売上高	8,000	8,000	-	-
	営業利益	900	900	-	-

- セグメント別の業績見通しについて
- 科学事業は上期実績を踏まえて、営業利益を変更
- 全社消去はTransform Olympusに伴う先行投資を織り込み、修正

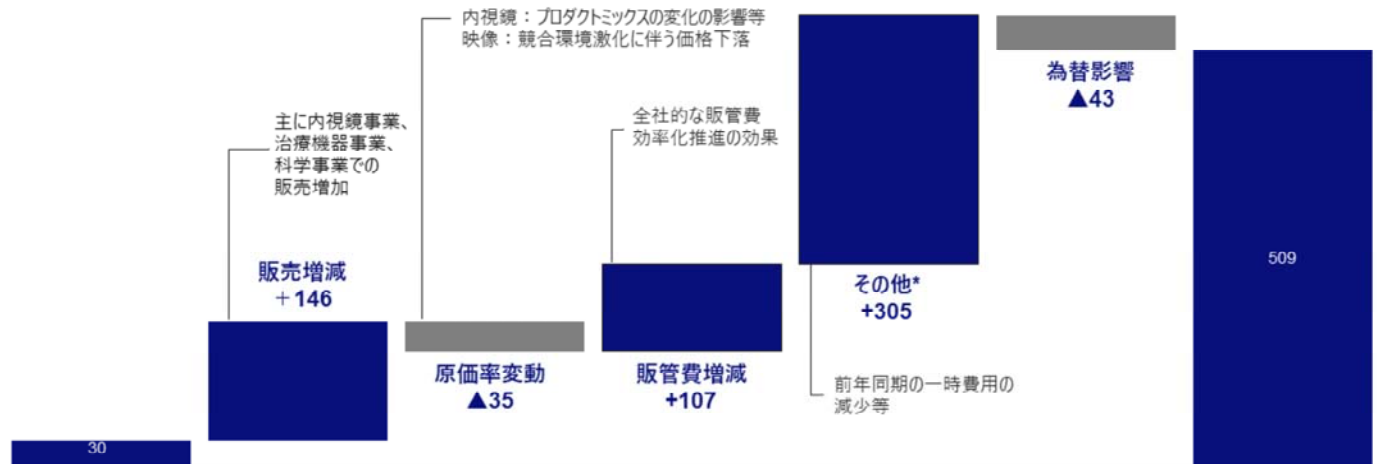
**OLYMPUS**



# 03 Appendix

# 参考資料：2020年3月期 第2四半期実績 ①連結営業利益増減要因

第2四半期累計実績（4-9月）

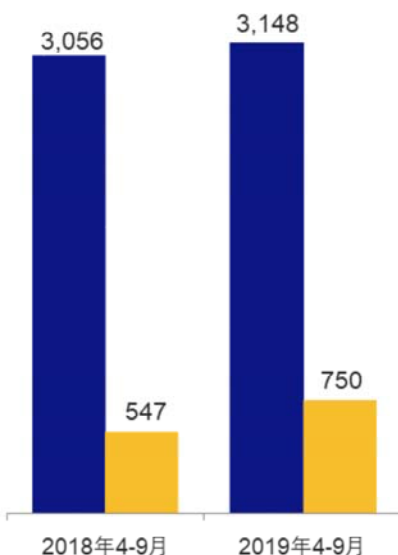


- ※前年同期に発生した主な一時費用
- 証券訴訟の和解金 192億円
  - 米国司法省との司法取引契約締結に伴う費用 97億円
  - 中国生産子会社に対する訴訟の引当金 38億円
  - 中国生産子会社操業停止に伴う費用 59億円

(単位：億円) \*その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

## 参考資料：2020年3月期 第2四半期実績 医療事業

■ 売上高 ■ 営業利益  
(億円)



☑ 売上高 中国と日本の高い売上成長を主要因に、医療事業全体が堅調に推移  
(為替影響除き+7%)

☑ 営業利益 全分野（内視鏡・外科・処置具）の増収および販管費の効率化等により、大幅な増益

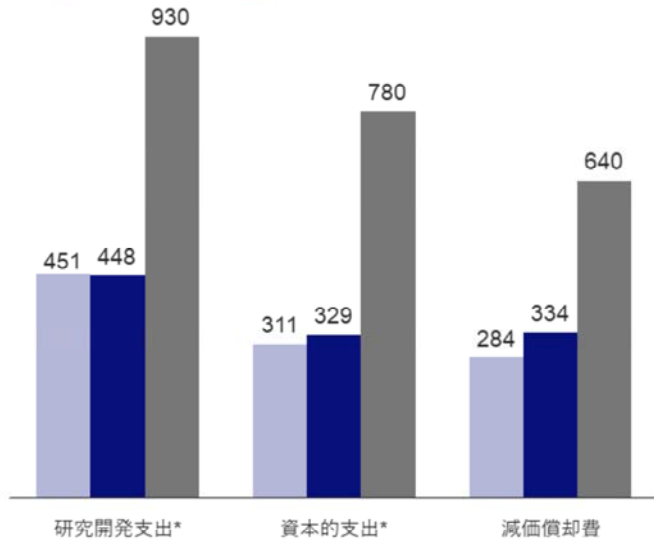
単位: 億円	第2四半期累計実績 (4-9月)				第2四半期実績 (7-9月)			
	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後
売上高	3,056	3,148	+3%	+7%	1,617	1,673	+3%	+8%
内視鏡	1,639	1,681	+3%	+6%	876	901	+3%	+8%
外科	1,008	1,036	+3%	+6%	534	552	+3%	+8%
処置具	409	431	+5%	+9%	208	221	+6%	+11%
営業利益	547	750	+37%	+44%	273	474	+74%	+85%
その他の損益*	▲69	▲9	-	-	▲78	▲11	-	-
営業利益率	17.9%	23.8%		24.1%	16.9%	28.4%		28.8%

\* 決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

## 参考資料：投資等

### 第2四半期累計実績および通期見通し

(億円) ■ FY2019 2Q累計 ■ FY2020 2Q累計 ■ FY2020 通期見通し



(単位：億円)

	FY2019 2Q累計	FY2020 2Q累計	FY2020 通期見通し
研究開発支出* (a)	451	448	930
開発費資産化 (b)	46	84	230
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	406	364	700

(単位：億円)

	FY2019 2Q累計	FY2020 2Q累計
償却費	36	33
	2019年6月末	2019年9月末
開発資産残高	348	377

\* 研究開発支出および資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています